

審議会等会議録

審議会等の名称	第3回山口市まちなかウォークブル推進会議
開催日時	令和5年8月25日(金曜日)13:30~15:00
開催場所	山口総合支所 第10・11会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	伊藤和貴、砂井昭、泉裕樹、河野康志、川口雄一郎、鷗心治、城一俊幸(敬称略、7名)
欠席者	鈴木春菜、北條栄作(敬称略)
事務局	山口市都市整備部都市計画課、有限会社ハートビートプラン
議題	(1)山口市まちなかウォークブルの推進について ・春の社会実験の実施報告
会議資料	・次第 ・議事資料 春の社会実験の実施報告
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長挨拶 山口市長 伊藤 和貴 3. 定足数の確認 出席委員数 7名(委員数9名) 4. 議題の説明及び協議 5. その他 次回の開催について 6. 閉会
議事録	<p><事務局></p> <p>【山口市都市計画課】</p> <p>それでは、定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。 本日は、大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>ただいまから、「第3回山口市まちなかウォークブル推進会議」を開催いたします。</p> <p>まず始めに、本日の資料の確認をさせていただきます。 先日お送りさせていただきました資料といたしまして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・春の活用社会実験の実施報告 <p>それから、本日、お手元に委員名簿と席表をお配りしております。</p>

以上の資料に不足等がございましたら、事務局までお申し出ください。

続きまして、令和5年3月20日に開催いたしました第2回推進会議以降に交代された委員を御紹介いたします。

山口市商店街連合会会長 川口 雄一郎様でございます。

<川口委員>

前会長の森生さんから代わりまして、この度出席することになりました川口です。どうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

【山口市都市計画課】

それでは、山口市まちなかウォークブル推進会議設置要綱第7条の規定により、会長が議事の進行を行うこととなっておりますので、伊藤会長に進行をお願いいたします。

<伊藤会長>

皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、本当にありがとうございます。

さて、3月に開催いたしました第2回会議におきまして、この春の社会実験の実施に向けて、様々な御意見をいただいたところでございます。

第3回目となります本日は、そうした御意見を踏まえまして実施した社会実験の実施報告と、実験結果を踏まえた今後の展開について、議論をしたいと思います。

皆様方におかれましては、引き続き、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

それではまず、議事に先立ちまして、定足数を確認いたしますので、事務局から報告をお願いいたします。

<事務局>

【山口市都市計画課】

御報告いたします。

本会議の委員数は9名でございます。本日御出席の委員は7名でございます。よって、山口市まちなかウォークブル推進会議設置要綱第6条第2項に規定する定足数に達しておりますことを御報告いたします。

<伊藤会長>

ただいま報告がありましたように、定足数に達しておりますので、これより議事を始めたいと思います。

それでは議事内容について、事務局から説明をお願いいたします。

<事務局>

【有限会社ハートビートプラン】

それでは春の活用社会実験の実施結果について御報告させていただきます。

まず、A3の資料を1枚めくっていただきまして、2ページでは、5月に行いました活用社会実験の実施概要をまとめております。

左上の「社会実験の概要」から御説明させていただきますが、目的としましては、「各スモールエリアの将来の空間イメージの共有」、「空間の活用可能性の検証」、これは事業性、ニーズ、使われ方などについてです。それから「空間の構成や必要な機能、什器デザインと配置の検証」、「継続的な維持管理及び運営方法の検証」、「将来像の実現に向けての課題の洗い出し」という5点を目的として社会実験を行いました。

実施エリアにつきましては、下の地図で、0から15までを全体で取り組むスモールエリアとしておりますが、その中でもまずポイントになってくるであろう箇所として、右のリストでは太字にしております「0. 山口駅通り」と「4. 一の坂川交通交流広場」、「5. どうもん広場」の3か所について、今回の社会実験の対象地といたしております。

調査項目については左下にまとめております。山口駅通りでは、アンケート、ヒアリング調査として、今回は地先の出店なども行っておりますので、その沿道事業者の皆さんへのヒアリングと、利用者の方へのアンケートを実施しております。もう一点が滞留行動調査として、どのように皆さんが地先の空間を使われているのか、あるいはどのくらいの時間滞在しているのかを調査しております。

2番目のどうもん広場に関しましては、主にCOFFEEBOYさんになりますが、地先事業者へのヒアリングと、イベント的に出店していただいておりますので、その出店者へのアンケート、あとは利用者の方へのアンケートを実施しております。またこちらも滞留行動調査として、どのような動きが見られたかということも調査しております。

3番目の一の坂川交通交流広場では、滞留行動調査として、先ほど申し上げたように、どのように人が動いているのか、使っているのかということ、什器も含めて調査をしているというところと、もう一点が、一の坂川交通交流広場に関しては真ん中の市道を止めて活用を行いましたので、その時に周辺の交通状況へどういう影響があったのかを併せて調査を行っております。

ちなみにこの滞留行動調査に関しましては、山口大学の宋先生の研究室

に御協力をいただき、学生の皆さんが相当大変な思いをしながら調査をしてくれたところです。

右上にはスケジュールをまとめておりますが、期間としては5月11日から21日で、その前後に設置や搬入、撤去を行っております。

その下は広報物についてですが、今回、チラシを4,000部とポスターを80部作成しまして、チラシに関しては近隣小学校、幼稚園、保育園での配布や各施設での配架を、ポスターは様々な施設での掲示をしていただいております。またその他、市報やSNSでの発信を行っております。

実施体制としては、検討チーム会議と市の皆さんとで立ち上げておりますまちなかウォークアブルプロジェクト実行委員会というところが主催で、運営協力として弊社と山口大学が入っている、という体制で実施いたしました。

それでは次のページから具体的な実施内容について御説明いたします。

まず一つ目のエリアである山口駅通りについてですが、左上の目指す姿として、「歩行者が安心安全に歩ける通りとなっている」こと、「歩道空間の一部が地先事業者によって活用され、日常的な賑わいが創出されている」こと、「休憩施設が設置され、滞在環境がつくられている」こと、「山口のメインストリートとしてふさわしい設えになっている」こととしておりまして、このエリアのプロジェクトコンセプトとしては、「居心地が良く歩きやすい歩行者中心の山口駅通り」といたしております。今回、ここは交通はやっておりませんので、活用の部分として、2番目、3番目のところを中心に実施いたしました。

実際に実施した内容につきましては、3点お示ししております。一つ目が、「各店舗の地先空間活用のトライアル」ということで、右側に少し写真も示しておりますが、樹木が立ち並んでいる間のスペースで、大体1.5mくらいの幅を活用するという形で実施しました。これに関しては、沿道の各店舗自身が自分たちの商売やサービスにおいて活用することを基本的な活用の仕方として実施しました。

二つ目が、「歩行者及び活用時の安全性確保」ということで、右下の写真でも示しておりますが、ここは自転車と歩行者の交錯が見られる場所でもありますので、こうした注意喚起、自転車向けの啓発を行うことで、歩行者の安全性の確保を図ったところです。

三つ目が、「地先空間活用に合わせた営業時間・サービス変更の試行」ということで、今回、営業時間の変更はありませんでしたが、一部店舗が期間限定の企画展などといったことを行っております。

その下がレイアウトでして、赤い文字で示した8店舗が、今回、地先の活用を行った店舗で、青い文字で示した部分が自転車への啓発用の看板を設置した場所です。

右上の検証項目としては、まずは「地先活用の必要性の検証」ということで、これは利用者、お店側も含めて、どういう需要があるのかということの検

証です。二つ目が「地先運用の検証」ということで、これは運用方法やルールに関してです。三つ目が「デザイン性の確認」、四つ目が「交通影響への検証」で、この道路空間を使った時に歩行者にどのような影響があったかということの検証です。これを右に並べております検証方法、「当日の利用状況調査」、「利用者へのアンケート」、「参加店舗へのアンケート」、「滞留行動調査」というところで検証を行いました。

設置の様子の写真は一通り目を通していただければと思いますが、このような形で客席として使ったりとか、先ほど申し上げた企画展や展示のスペースとして使ったりとか、あるいはお店の営業とは関係なく休憩スペースとして使ってもらったりとか、各店舗の意向に沿った形で活用がなされました。また、この什器は山口大学の宋先生の研究室でデザインして設置していただいておりますが、各店舗へのヒアリングを行いながら、各店舗の用途に沿った形で設置をいたしました。

次のページ以降は、実際の調査結果の取りまとめです。

左上から御説明いたしますが、一つ目が利用者のアンケートで、什器で休憩されたりとか、ご飯を食べたりされた方にアンケートを行っております。回答者の属性は市内、近隣エリアが多かったところで、7割が市内の居住者、うち8割が白石、大殿地区の居住者でした。性別は男性が6割、女性が4割で、年齢は半数が60代以上でした。

歩道空間の使われ方につきましては、とても良いが89%、良いが11%と評価が高く、座って休憩できることや滞留できることがすごく評価されたという結果になっております。

設置したテーブルや椅子の評価についても、「使いやすさ」や「見た目の印象」、「安全性」について質問しておりますが、基本的には「とても良い」、「良い」といった肯定的な回答が大半を占めているという結果でした。

取組の認知については、チラシなどで知っていたという方が6割、知らなかったという方が4割でした。まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることについては、「とても良い」と「良い」を合わせて100%でした。また今回の社会実験の取組についての評価も同様で、「とても良い」と「良い」を合わせて100%で、こういう居心地が良く歩いて楽しいエリアになっていくことの取組に対する評価は高くなっているという結果でした。

ページの右側は、地先を活用した事業者へのアンケートで、こちらに関しては、「とても満足」と「満足」を合わせて62%で、「どちらでもない」が38%という結果になっております。これはサービス内容に合わせて積極的な活用を行った店舗ほど満足度が高いといった結果になっておりまして、例えばお店の客席として使うとか、お店の商品の展示で使うとか、企画展を行うとか、そうした積極的な活用を行った店舗の方が満足度は高いといった結果でした。今回は分量が多いので、表の中までは細かく御説明しませんが、そういった傾

向が見られる状況でした。

今後の活用意向に関しては、「活用したい」が7店舗、「活用したくない」が1店舗で、常設・仮設のどちらが良いかについては、「常設がよい」が5店舗、「仮設でよい」が1店舗、「どちらでもよい」が1店舗でした。また、活用する場所は道路側が良いか、店舗側が良いかという質問につきましては、「道路側」が良いという店舗が半数でした。

それから下のまとめのところで、「常設がよい」という意見が多いところではありますが、耐久性や管理の問題が気になるという意見がありました。また、活用する場所に関しては、「道路側」が半数という結果になっておりますが、これは、お店側に置くと、歩道を歩く歩行者がお店の方を見るということが気になるという意見も挙げられております。「店舗側」の方が良いという意見は、サービスを提供しやすいとか、安全性といった点を挙げられております。それから利用しやすい場所や什器の種類において、日陰の確保の必要性が挙げられております。

5ページに移っていただき、左側は滞留調査の結果についてです。表が分かりにくい部分もあるかもしれませんが、調査としては、休日と平日の2日間について、どういう使われ方をしているのか、ということ进行调查しております。いずれの日も10時から18時までの間で実施しております。

左側の上下二つが平日の結果、右側の上下二つが休日の結果ということで、それぞれどれくらいの人数か、どれくらいの時間滞留しているか、ということをもとめております。

下にまとめとしてお示しておりますが、平日については、KO SILVERとhangout coffeeでの滞留が最も多いという状況になっております。これはどちらのお店もそれぞれのお店の営業、サービスとセットで活用されているということもあって、寄られたお客さんが更に長い時間、お店に滞留するという傾向が見られたところです。ただし、滞留時間自体は全体で見ると短時間がすごく多く、10分以上の滞留は一部しか見られなかったところです。

休日については、日本茶専門店八十八での滞留が最も多かったところですが、これはテイクアウトで飲んでいるというよりは、近くの店舗の入店待ちで使っているという影響で、滞留時間が伸びているという結果になっております。ただし、平均して平日に比べて滞留時間が伸びているという傾向は見られております。

以上を踏まえまして、右側の検証結果分析について、一つ目の「地先活用の効果の検証」に関しては、設置した什器の利用及び店舗前空間での滞留は、休憩や少し足を止めるような短時間のものが多いところではあるが、休日では滞留時間の増加傾向が見られた、というような結果になっております。

また、設置した場所別では、先ほど申し上げたように、参加店舗において、客席として使ったり、商品展示をしたりといった、サービス内容に合わせた積

極的な活用を行ったところについては利用頻度も高く、参加店舗自体の満足度も高かった、という結果になっております。あとは、先ほどの近隣店舗の開店待ちに使われていたという状況もありました。

また、青文字で示しておりますが、活用内容のうち、客席や商品の展示を行う場合は店舗スタッフの目が届く必要が当然ありますので、お店の中から外が見えるなど、そもそもの店舗の造りなどによる影響も大きいと考えられます。

また、参加店舗の多くは今後の活用意向を示しており、8店舗中7店舗が活用したいと答えていただいているところで、その点はすごく良かったと思います。ただ、活用内容、どのように使っていきたいかという意向については幅があるところです。

二つ目の「運用方法の検証」につきましては、今回の什器の運用については、期間中は常設で設置したため、店舗側での対応は基本的にはプラスアルファで設置した可動式の椅子等の出し入れや、什器の拭き掃除をしていただいたくらいで、特に問題は見られなかったかなと思います。

自転車利用に関しましては、普段から歩道上に自転車をとめられている方から、「什器が設置されていてとめられない。どこにとめたらよいか。」と尋ねられたという報告を伺っております。

三つ目の「デザイン性の確認」についてですが、利用時のわかりやすさについては、参加店舗から、「通行者が利用してよいものか分かりにくい」、「説明の掲示はあったが分かりにくく、年配の方向けの案内があると優しい」、「市民に浸透していない」、「慣れれば使われるかもしれないが、使っているかわからない」といった意見が挙げられております。その下に青文字で示しておりますが、休憩スペースとして使ったところと、店舗の座席として使ったところと、このあたりが曖昧な感じになっていて、利用が通行者に委ねられていたという部分もあり、そういう意味でも分かりにくい、使いにくいというところであったのかなと思います。

利用可能スペースについては、樹木の間ということで、スペースもあまり大きくなく、当初、このあたりの使い勝手はどうかなと思っておりましたが、問題なく利用されておりました。もっと広いスペースの方が良いという意見があったわけでもなく、今ぐらいでも活用はしっかりできるのではないかとということで、お話をいただいております。

デザインについては、利用者の評価は高い一方で、参加店舗からは様々な御意見をいただいております。今回は、三角形状にして、体を少し斜めにするような形で、視線を交錯させにくくする、という工夫をしていただいておりますが、「その三角の形状がとがっており気になる」という話であるとか、仮設のためあまり費用をかけているわけではなく、ある程度一律の素材とデザインの方向性で作っていることから、「その設えが少し安っぽかった」とか、「各お店

の個性やターゲット層に合う見た目の方が良い」といったお話もいただいております。あとは逆に「場所に対してもっと什器が小さくてもいいのではないか」という御意見もいただいております、こうした店舗ごとのニーズの違いということが明確になっておりますので、今後実施していく場合には、もう少し各店舗のニーズに合わせた形のデザインということも検討していく必要があるのではないかと思います。

四つ目の「交通影響の検証」につきましては、今回、通行者、利用者の危険性について言及する意見は挙げられませんでした。利用者の声の中には、「店構えをゆっくり見ることができて、スペースとしては良いのではないか」という意見がある一方で、参加店舗からは「休憩スペースに人が座っていると気になる」とか、「店前の道路に車を横付けしにくくなる」といった意見がありました。

最後にまとめとして御説明させていただきますが、一旦、検証の結果分析としてはここまでいたします。

続いて、6ページからはどうもん広場についてです。

どうもん広場につきましては、目指す姿として左上に4項目ほど整理しておりますが、「広場が一体的に活用され来街者の居場所となっている」、「飲食などの提供により賑わいが創出されている」、「商店街における子ども連れの滞在環境がつくられている」、その他のサービス、これは今回全部できているわけではありませんが、授乳室やベビーカー、車椅子の貸し出しなど、そういった「その他のサービスにより街の滞在時間の向上に寄与している」、ということを目指す姿として挙げておまして、プロジェクトコンセプトとしては、「商店街に快適な滞在環境を生み出す」ということで進めております。

実施概要は4点ありますが、一つ目が「所有者の異なる空間の一体的な活用」ということで、商店街が整備されている部分と、SARAさんなどが使われている部分に分かれておりますので、これを一体的に使っていこうというものです。

二つ目が、「滞留空間としての機能の拡充と事業性の確認」ということで、これは毎日ではないですが、平日、休日に飲食などの事業者を公募して出店してもらおうということ、既存のベンチ、テーブルより数を増やして休憩施設を設置すること、あとは夜間の照明の設置をするということです。

三つ目が、「子どもの居場所、遊び場としての活用」ということで、今回、デザイナーさんにも入っていただきまして、右側の写真にありますように、既存の遊具ではない、色々な遊び方ができる遊び場みたいなものを設置しました。これは以前、商店街の皆さんから、子どもがいる家族連れがいられる場所が少ないというお話をお聞きし、その上で商店街の皆さんともお話をし、遊び場の設置をしたいということで、この度、設置したところです。

四つ目が、「来街者向けサービスの試行」ということで、今回、車椅子やベ

ビーカーの貸し出しということも行っております。これは山口道場門前商店街振興組合において対応を行って、貸出のサービスを行ったところですが、今回、これに関しては、期間の問題などもあったのか、利用がなかったという結果になっております。

下側にレイアウト図をお示ししておりますが、商店街アーケード側の緑色の部分に遊び場を設置し、駐車場に向かう通路のところに店や休憩施設を増やしたところです。

こちらに関しても、右上に検証項目と検証方法をまとめておりますが、検証項目の一点目は「一体的な空間運用の検証」、二点目は出店をしていただいた時に本当に売上げが上がるのかといった「広場での事業性の検証」、三点目は「遊び場としての空間の検証」、四点目は「利用者の利便性の検証」といった項目を、その右にお示ししております五つの検証方法、「当日の利用状況調査」、「利用者へのアンケート」、「出店者へのアンケート」、「地先事業者へヒアリング」、「滞留行動調査」によって検証を行ったところです。

実際に設置した写真をお示しておりますが、既存のコンクリートベンチに対して、もう少し柔らかい印象を、ということで、木材を使用し、少し機能を付加して座りやすくしたり、既存の手すりに手すり用のテーブルをつけたり、椅子やテーブルを増やして設置したりして、休憩しやすい空間を作るということを行いました。真ん中の段の左側が全体の様子で、写真左側の通路部分に出店を行い、写真の中央の芝生部分に遊び場を設置いたしました。左下が夜間の演出の様子で、「暗くなった時に怖い」という声もありましたので、このような電球を設置したところです。

7ページからが調査の結果で、まず利用者へのアンケートについてです。回答者の属性は、8割弱が市内居住者で、そのうちの半数、全体では4割弱がまちなかの居住者という結果でした。男女の割合は山口駅通りと同じような感じで、男性が6割、女性が4割でしたが、年齢層に関しては山口駅通りより若干下がっており、30代、40代が多いという結果になっております。

下の段に行きまして、どうもん広場の取組につきましては、こちらも「とても良い」と「良い」の合計で100%と、評価が高い結果でした。特に良かったものに関しては、「遊び場」で、これは我々もびっくりしたんですが、設置している途中から、子どもが「遊びたい」と集まって来て遊び始め、お母さんたちがそれを見ながらコーヒーを飲んでいる、というなかなか良い光景だったと思います。また、山口駅通りと同様に、まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることについて、「とても良い」と「良い」の合計で100%という結果になっており、取組全体についても同様の結果になっております。

次に、地先事業者へのヒアリングで、こちらはCOFFEEBOYさんにお話を伺ったところです。店舗の営業への影響については、特に問題がなかったところですが、最近はお弁当を買ってきて、コーヒーの注文はせずにCOFFEEB

OYさんの客席で食べているということもあるということで、その辺は注意して欲しいというお話があり、我々も注意して見ておりましたが、期間中そうしたこともなく、「皆さんのマナーも良くて、全体的に賑やかな雰囲気楽しかった」とおっしゃっていただいております。

売り上げに関しては、平日、休日問わず出店があるということは、売り上げに相乗効果があったということで、今回の取組は出店と遊び場の設置だけでしたが、特に休日は、「イベントをした時と同じくらいの売り上げがあった」というお話をいただいております。

あと、今回は春の開催でしたが、秋や冬の間はCOFFEEBOYさんがお店を閉める時にはすごく暗くなっていて、こういう照明の演出が明るいと怖くなくて良いというお話もいただいております。

右側が出店をしていただいた事業者へのアンケートですが、事業者は4店舗で、2回出店された店舗もありますので、合計は6出店となっております。

こちらに関しては、上から二つ目の満足度のところで、「とても満足」が2店舗、「とても満足」が1店舗、「どちらでもない」が1店舗と、満足度は割とあったのではないかと思います。また、今後の参加意向については、4店舗中3店舗が参加したいと回答しており、出店箇所の広さに関しても、ある程度満足度が高かったという結果になっております。

今回のように日常的に出店する場所になるという日常的化についても、「良い」と「とても良い」という回答であり、出店者の皆さんからもまた機会があれば参加したいという声も多く聞かれているところでございます。

また、ここには具体的には記載しておりませんが、売り上げについてもかなり高い日もあったということで、「大きなイベントに行った時と同じくらいの売り上げがあった」と回答された店舗もありました。天候なども関係してきますが、売り上げもかなりある場所ではないかということが出店事業者からのアンケートで明らかになったところです。

続いて次のページは滞留行動調査についてです。こちらは調査日時が全部で4日間ありまして、土曜日と月曜日に調査を行っておりますが、上側の4月22日と5月8日は社会実験前に、下側の5月13日と5月16日は社会実験中に調査を行ったものです。ただ、社会実験中の調査日の5月13日土曜日は雨天だったので、遊び場になかなか人が寄り付けないという状況でした。

その下のマップでいうと、左側の二つが社会実験前の状態で、右側の二つが社会実験中のものです。ざっと全体を見ていただくと、平常時に比べて社会実験時は割と広範囲に利用が広がっているという状況です。また、細かく見ていかないとなかなか見づらいところもありますが、社会実験中の方が、より多様な使い方をされている、色々なアクティビティが行われている、という傾向があります。

今回は「出店」と「遊び場」と「休憩場所を増やす」という形で、そこまでイベ

ント的にやっているわけではありませんが、ちょっとした仕掛けでこれだけ多様なアクティビティと活用範囲の拡大が起きているという状況になっております。

その下の、広場の出入り方向ごとの人数ですが、これが今回、我々が最も実現したいこととして、商店街の方々ともお話していたものです。ここに出店があったり、休憩ができたり、子どもがちょっと遊べたりすることによって、商店街そのものの滞在時間がどれくらい伸びるのか、しっかり見ていこうということで調査を行いました。

その右側に、出入りの種類をお示しておりますが、①番は商店街側から入ってきた人が、また商店街側に戻っていったパターンで、今回、これがどれだけ増えたのか、ということが一番気にしていたところです。②番は商店街側から駐車場側へ、③番は駐車場側から商店街側へ、④番は駐車場側から入ってきて、駐車場側に戻っていくというパターンで、左側の表にそれぞれの結果をまとめております。

①番の青い棒グラフのところですが、社会実験時には、商店街側から入って商店街側に戻るという出入りが、休日では97から130に、平日では80から96に増えており、平日、休日問わずこの出入りが伸びているということで、まだまだ母数は少ないかもしれないですが、広場で滞在して、もう一度商店街に戻っていくという利用者が増えているものと推測できると思います。このように、広場の滞在環境が向上することで、もう一度買い物に行こうとか、普通のただ買って帰るだけの行動から、もう少しプラスアルファで買い物の行動がついてくるところを目指していきたいと思います。

それから右側の検証結果のところでは、一つ目の「一体的な空間運用の検証」に関しては、二つの敷地を異なる機能で利活用していくことで、多様な利用の場面を作り出すことができ、全体的にすごく賑わいのある空間になったと思います。

また、滞留行動調査によって、広場全体が使われて、かつ休日では商店街に戻っていく割合も増えたことが明らかになり、こうした取組が商店街全体での滞留時間の増加にも寄与しているのではないかと、ということが伺えると思っております。

また運用面においても、商店街とのお話の中で、夜間は閉鎖した方が良いのではないかと、という意見もありましたが、24時間全部開放していこうということになった中で、特段変な問題なども起こりませんでした。

また夜間の演出も、暗い印象だった広場の夕方から夜間の雰囲気向上につながったことから、今も継続して設置をしております。

二つ目の「広場での事業性の検証」については、出店の満足度がすごく高く、今後の参加意向も高かったということと、売り上げは店舗によってばらつきはあり、また天候や気温にも左右されるところではありますが、平日でも出

店者の予想を超える売り上げがあり、一定の事業性もある場所だということが考えられると思っております。

また、配置についても、当初は駐車場側に出店を配置していましたが、商店街アーケード側に近い方に出店しようということで、急遽変更しまして、搬入もしやすく、また商店街の利用者からも見やすい配置になり、売り上げも増えたという結果になっております。

あとは、これは課題点ですが、商店街の交通規制が19時までとなっており、今回、出店が17時で終わりという方も2時間待ってもらって搬出という形となり、出るまでの待ち時間という課題がありました。これに関しては、後日色々とお話を聞く中で、商店街のイベントの際は、警察とも話して、商店街の方がつくことで交通規制の時間中も出入りができるようになったということでしたので、今後、常に行う場合には協議が必要とは思いますが、解決策はあるのかなと思っております。

三つ目は「遊び場としての空間の検証」ということで、今回、滑り台などの分かりやすい遊具の設置ではなかったのですが、その分自由な使われ方をしており、当初の想定よりも想定以上の利用があったということです。親はどうもん広場側の休憩スペースにいて、コーヒーを飲んだりしながら、子どもは遊具で遊んでいるという風景も多く見られて、機能としての分担もうまくできたのではないかと思います。

一方で、常設化に当たっては、こうしたものの常ですが、強度とか維持管理をどうするか、ということは問題になります。ただ、平日の夕方など、幼稚園、保育園帰りのお母さんは早く帰りたいのに子供が遊んでしまい、長時間そこにいなくてはいけないと、半分愚痴っぽく言われていたこともありました。そういう意味では子どもにはすごく人気の場所になったかなと思っております。

四つ目は「利用者の利便性の検証」ということで、こちらについては椅子、ベビーカーの貸し出しを行ったものの利用がなかったということで、期間が短いことによる周知の問題なのか、需要の問題なのかということは、まだ検証できていないという状況です。

ただ、「休憩施設の拡張」、「遊び場の設置」、「飲食出店」のいずれも滞在環境の向上に寄与し、通常よりも多くの方が広場に滞在する環境をつくることのできたのではないかと思います。また、ここは普段、喫煙の方が多い広場でありますので、商店街の方からは、「普段とは全く違う風景だったね」という意見もありました。

どうもん広場については以上です。

続いて、9ページに移りまして、一の坂川交通交流広場についてですが、目指す姿として、一つ目が「親水性が高い魅力的な水辺空間が形成されている」、二つ目が「既存施設と広場・水辺空間が一体的に活用されている」、三つ目が「既存施設が有効に活用され、継続的に事業化されている」、四つ目

が「広場全体が安定的に管理運営され、日常的に利活用されている」、五つ目が「交通交流広場が回遊のハブの一つとなり、一の坂川流域までゆっくりと足を延ばすシーンが創出されている」としております。

プロジェクトコンセプトとしては、「交通交流広場を水と緑と人の結節点に」ということで、ハブ機能を持った場所として使われる、ということを目指した位置づけとしております。

今回の実施概要としましては、一つ目が「河川を感じることでできる空間づくり」というところで、デッキ空間を河川沿いに設けたところです。二つ目が「道路空間を含めた一体的な広場活用」ということで、間を通っている市道を3日間通行止めにして、そこを活用したところです。三つ目が、現在、トイレなどがある「既存施設の利活用」として、これを出店でも使っていくということです。四つ目が「交通結節機能の拡充」ということで、これは社会実験前に既に市により実施されましたが、シェアサイクルポートを移設しております。元々、既存施設の裏にあったものを、右側のレイアウト図にも示しておりますが、左下のより見やすいバス停のすぐ脇のところに移設されたところです。また、広場の視認性の向上として、商店街から見た時に「何かやっているな」というのが見える状況を作るため、シンボル性が高い什器を設置したところです。これは右上の写真で「風の涼み台」としてお示ししていますが、山口大学にデザインも含めて設置していただいたところです。

検証項目に関しましては、「河川空間の利用ニーズ検証」、「空間を一体的に使うことによる効果検証」、「交通を止めたことによる影響の検証」、「既存施設の利活用・事業性の検証」、「交通結節点としての機能の拡充」というところを、右側の検証方法として、「利用者へのアンケート」、「出店者へのアンケート」、「滞留行動調査」、「当日の利用状況調査」、「交通交流調査」、これは事前と社会実験中の調査結果によりますが、これらによって検証を行ったところです。

右上のレイアウト図にお示しておりますが、真ん中の市道を止めて、ここに風の涼み台を置いたり、出店をしたりということで、広場全体を一体的に使うということを今回はチャレンジしております。実際の写真はその下のおりで、ミズベテラスや風の涼み台といった休憩施設を設置したり、芝生部分に木製遊具を、これは市内の事業者からお貸しいただいたものですが、こういう遊具を設置したり、ということを行いました。

調査結果は次の10ページからで、利用者アンケートについては、回答者の属性は6割強が市内居住者ということで、ここは他と比べて少し市外の方が多いという状況でした。また、男女比は半々で、年齢は40代が最も多く、20代から40代で全体の8割以上を占めている状況でした。

広場の一体化の評価については、「とても良い」が80%で、「悪い」、「とても悪い」の評価はなく、かなり好意的に受け止められていたのではないかと思います。

っております。特に良かったものとしては、「遊具」が一番多かったところではありますが、割と全体的に評価されているかなと思っております。

他のエリアと同様に、まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることや、てくてくやまぐちの取組については、どちらも良い評価をいただいているという状況です。

ページの右側が出店事業者へのアンケートの結果ですが、出店の満足度は、「とても満足」と「満足」ということで、皆さん満足されているところでありました。ある事業者さんは2日間出店していただきましたが、そんなに人が来るとっておらず、初日は早々に売り切れてしまい、次の日は大量に準備してくださったということもあって、出店の事業性という意味でも評価がすごく良かったところでした。今後の参加意向についても、皆さん参加したいということで、「また声をかけてください」という声をいただいております。

出店箇所や広さに関しても、「とても満足」と「満足」がほとんどという結果でした。

また、交通交流広場が日常的に出店できるようになったらどうか、という質問に関しても、「とても良い」という意見を多くいただいております、全体的に出店者の満足度は高いという結果になっております。

続いて次の11ページは、交通の影響を調査したものです。

今回、真ん中の市道を止めましたので、その周辺にどのような影響を及ぼしたのか、ということを検証しております。

左上の図の中にお示しておりますが、市道の両側にバリケードを置いて、この間を封鎖いたしました。検証方法としては、西京橋、中市町、大市町の各交差点でビデオ撮影による観測をしております。

調査日時は、社会実験前の平日、休日である4月21日と23日と、社会実験中の同じ曜日である5月19日と21日について、それぞれ7時から19時の間で調査、比較を行いました。

あと、この調査とは直接は関係ありませんが、臨時の対応として、近隣店舗からの要望により、交通規制の期間中に限り、既存の建屋のすぐ裏のスペースを臨時駐車場として2台分ほど設定いたしました。

以降の図には細かく数字をお示しておりますが、まとめのところだけ説明させていただきます。

左下は、平日の自動車交通量の変化を見ており、交通交流広場前の歩行者専用化に伴い、その両サイドにある西京橋交差点と大市町交差点の北側へ流入、流出する自動車交通量が増加しておりますが、いずれも1時間当たり10台にも満たないということで、周辺に大きな負担がかかっているということではなかったと考えているところです。

右上は、休日の比較パターンで、平日よりも増加幅が大きい方向の交差点もありますが、全体としては平日よりも交差点への負荷はかかっていないと

いう状況でした。

右下は、歩行者と自転車交通量の変化ということで、イベントをやっていた休日の様子ですが、交通交流広場の前の出店の様子が商店街の方からも見えているということもあって、県道を横断する人が増えているという結果になっておりまして、広場を活用することによって、ハブ機能というか、人が集まる機能が少し拡張されているという状況になっております。

続きまして、12ページに移り、滞留行動の調査についてですが、これは実施期間中のうち2日間のみで、5月19日は出店がない日、5月21日は出店があった日の調査結果です。

一つ目はミズベテラスについてで、図ではブロックに分かれていて、上側が川側であり、どの部分がどのように使われたかという調査です。ちょっとわかりにくいところもありますが、平日は川側に座って川を見ているという利用者が多かったところですが、休日は逆で、広場側に座って子どもの遊びを見守る、という利用がすごく多かったところでした。

アクティビティとしては会話がすごく多く、皆さんここに集っておしゃべりをされており、実はこれは朝の早い段階から行われているという状況でした。

また、こちらに関しては、当初、社会実験が終わってすぐに撤去するという想定でしたが、残して欲しいという声もありましたので、少し期間を延長して設置したところでした。

その下は風の涼み台の利用状況ですが、こちらについては、休日は出店の影響で、ここで食事をしたり、会話をしたりという方がすごく多かったところでした。また、ちょっとわかりづらいですが、涼み台の遊具側はミズベテラスと同様に、何をやるわけでもないですが、子どもを見守っている親がここに集まっている、という状況が見られたところでした。

右側に全体の検証結果をお示ししておりますが、まず「河川空間の利用ニーズの検証」につきましては、家族連れ等がゆったりと会話するシーンが多く見られ、「交流の場」として利用されたものと認識しております。

また、調査期間中、特段の掲示等はありませんでしたが、危険な利用は見受けられなかったところでした。夜間もテープライト等で最低限の視認性を確保し、危険な利用や危険な状況は確認されておりません。ホタルの飛ぶ場所ということもあり、明るすぎず、ただし危険は回避できるようにということで、過度な灯りではないテープライトによる照明を施したところでした。

また、デッキ自体に段差を設けるなどのデザイン上の工夫などにより、安全な利用を促しつつ、親水性も高める可能性が実証できたものと思っております。

その他、公園側の対岸、公園側から見える位置に設置したため、公園側と行き来するような活用も生まれ、公園側との一体感にも寄与したものと考えております。

二つ目の「空間の一体化による効果検証」につきましては、遊具では子どもたちが楽しみ、大人は木陰でゆっくりする、そのあと家族でご飯を買って楽しむといった、長時間滞在するシーンが見られたということは大きなところかなと思っております。

また、先ほど申し上げたように、夜間は特別な管理を実施したわけではありませんが、交通面や防犯面での混乱は生じておらず、いたずらなどもされなかったところ です。

今回は主催側でパラソルなどの管理を行ったところですが、将来的にはどのような主体でやっていくべきかということは検討が必要かと思っております。

交通規制に関しましても、周辺交差点への負荷等を確認しましたが、大きな支障は生じていないと評価できると思います。ただし、先ほども申し上げましたが、実施に当たって近隣店舗から、交通規制による営業へのマイナスを考慮して駐車場を設けて欲しいという話もあったとおり、今後こういう方向に行くのであれば、近隣店舗や周辺住民の理解醸成にしっかり取り組んでいく必要があると思います。

三つ目の「交通結節機能の拡充」につきましては、サイクルポートは先ほど申し上げたとおり、社会実験前に市において目立つ場所に移設されております。ただし、それによってすぐに利用に結び付くかという点、そうした傾向はこの時点ではまだ確認できていませんが、かなり目につく場所になったので、今後の利用については期待できるかなと思います。

それから風の涼み台、車道上に置いた什器ですが、これを設置することによって商店街や県道側からの視認性が向上し、そこからこれを見に来るといいう方が多く見られました。ここで休憩して、各エリアを周遊するという動きも少し見られたことから、結節点としての機能の拡充をしていくということは、エリア全体に効果があるのではないかと思います。

四つ目の「既存施設の利活用」につきましては、現況の既存建屋は飲食店などの営業許可があるわけではないため、出店の手続きとしては普通の屋外出店と同じものが必要になりますが、インフラが整っているため、通常屋外出店よりも手の込んだ出店をしていただくことができました。

また、この建屋があることによって、出店用の電源やイベント来場者のトイレも確保することができましたので、広場全体の活用にはすごく良い施設であると思います。ただ、これは出店者の話になりますが、屋外での出店に比べて中に入ってしまうので、広場での出店との連続性や、お客さんに来てもらうためには、メニューの外部への掲示など、ここに出店しているというのが分かるようにしていく必要があると思います。

今回は2日間の出店であったので、この施設自体に事業性があるかということはまだ未知数だと思っております。出店の調整においては、どれくらいの来訪が見込めるか不透明だったため、何店舗くらい呼んだらいいのかなど、

調整上のネックになった反面、実際には日常的な利用が多く、イベントで来るわけではなく本当にただ休憩しに来る人も多かったため、出店の可能性はあるのではないかということと、出店者の満足度も高かったという結果になっております。

この事業活用が可能となってくれば、地先空間あるいは広場空間の管理とも連動させていって、この広場全体を使っていくとか運営していくみたいな形によって、周辺への良い影響を出していくことも可能性があるのではないかと感じております。

以上、3か所について私から報告させていただきました。

【山口市都市計画課長】

ここからは都市計画課から説明させていただきたいと思います。

13ページからは、箇所ごとのまとめという形で、まずは山口駅通りから御説明いたします。

まず、社会実験の結果につきましては、歩道にテーブルや椅子などの什器を設置することについて、利用者からは、概ね好評の意見をいただいております。

参加店舗については、飲食店や装飾品店などからは好評である一方、ベンチを置くことで外から作業の様子をじっと見られるという点について、少し抵抗感を示されたところもございました。

それから、歩行者の滞留時間は伸びる傾向にございました。

それと、これは課題点ですが、駐輪場所がなくなり、駐輪場所の問い合わせが増えた、ということがございました。

これらを踏まえた今後の取組といたしましては、継続的に歩道を活用するためには、社会実験については継続していかなくてはいけないのかなと考えております。

それと、今回は参加店舗が8店舗で、少し少なかったかと感じておりますので、更に参加店舗を増やしていくための周知活動を行っていく必要があると考えております。

また、各店舗のニーズの違いへの対応や、なかなか気づかなかった部分もありますが、安全性等に配慮した什器形状の工夫も必要と思います。

それから、山口駅通りについてはこれから交通の社会実験を考えておりますが、道路空間の再編案によって活用できる空間も変わってきますので、まずはこの再編案を早期に策定していく必要があると思います。

それに伴いまして、活用可能となる歩道スペース、駐輪場の確保に向けた検討も必要になってくると思います。

また、歩道等を更に活用しやすくするためのルールづくりも必要となってくるかなと思っております。

現在、山口駅通りにおきましては、景観形成重点地区の指定に向けた作業を併せて行っており、こうした道路空間の魅力を更に高めるための沿道建物のデザインガイドラインの策定についても、行っていく必要があると思っております。

続きまして、どうもん広場のまとめについてでございます。

まず、社会実験の結果につきましては、こちらも、取組全体に対して概ね好評の意見をいただいております。

特に利用者につきましては、商店街を散策される途中で利用される形であり、滞在時間も増えている傾向と考えております。

また、地先事業者、出店事業者からも、「売上げが伸びた」などと好評の意見でございました。ただし、休日と平日で売上げにかなり差があったようで、これを継続的に事業化するための課題もあると考えております。

この度は、遊具の設置という形をとったため、家族連れの利用も多かったところでございます。

また、社会実験の調査日が残念なことに非常に強い雨の日であったため、我々が想定していた結果とは少し異なった結果となったところでございます。

これらを踏まえた今後の取組といたしましては、継続的に広場を活用するための社会実験の継続、什器や遊具等の常設化の検討、広場を活用しやすくするためのルールづくり、継続的に事業者を確保するため、売上げが確保できる仕組みづくり、キッチンカーのアーケードの交通規制時間帯における入出場を可能とするための協議、それとこの取組を他のスモールエリアに広げていくための検討が必要であると考えております。

次に、14ページに移っていただき、一の坂川交通交流広場のまとめについてでございます。

まず、社会実験の結果についてですが、こちらも非常に天気にも恵まれ、利用者も多く、好評の意見をいただいております。出店事業者からも、売上げが非常に良かったということで、「再度参加したい」という声もいただいております。

それから、ミズベテラス、風の涼み台ということで休憩場所を設置したところ、そこで会話、飲食など様々な形で非常に利用していただけたところでございます。

また、既存施設はトイレや電源を備えているため、今後の様々な形での利用に向けたポテンシャルの高さが再確認されたところでございます。

それから県道204号線につきましては、この道を横断する方が想定以上に多かったということで、非常に社会実験の効果があつたのではないかと考えております。

それと、広場を分断する市道の通行止めにより、周辺の交通に対して影響があるのではないかとおりましたが、それは多くなかったという結果が出てお

ります。

これらを踏まえた今後の取組といたしましては、継続的に広場と市道を一体的に活用するために、更に社会実験の継続が必要なのではないかと考えております。

また、交通規制に関しましては、長期的に行っていく場合には、周辺住民、近隣店舗の方々に理解を求めていくことが必要だと考えております。

それから、テラスや遊具等の常設化の検討、既存施設の活用の検討、広場活用のためのルールづくり、広場を継続的に活用するための運営主体の検討が必要と考えております。この取組を継続的に進めていくためには、やはり民間主導という形が非常に重要になってまいりますので、取組を行っていただく、引き継いでいくための運営主体の検討が必要になると考えております。

また、商店街から人を呼び込む、又は商店街への人の流れを作る仕組みづくりが必要だと考えております。

最後に全体のまとめでございます。

今回、ベンチやテーブル、それから遊具等の設置、キッチンカーの出店などといった様々な形での空間活用による社会実験の実施を行ったところでございますが、利用者や活用事業者からも一定の評価を受けるとともに、非常に人の流れも活発になり、滞在時間も増加したということで、我々が考えております広場等の活用が、回遊性の向上につながるということが確認されたのではないかと思います。

特に今回、様々な場所にベンチやテラスといった優良な休憩場所を設置したことによりまして、人がそこで気軽に休んでいただける、滞在時間も増えるということが確認できたのではないかと考えております。

それと、今回はあまりイベント的にならないようにということで、PRもなるべく派手に行わないようにしましたが、これだけの効果が現れたところでございます。

その一方で、これを継続的に進めていくための仕組みづくりやエリア全体の人の流れを更に作っていくためには、少し課題も出てまいりましたので、もう少し社会実験というのが今後も補足的に必要なようになってくるのではないかと考えております。

それと併せまして、先ほど申しあげました山口駅通りの交通社会実験につきましても、当初、事務局において案を用意し、とりあえず社会実験をやって結果を出してみても、と考えておりましたが、やはり地元の方や沿道事業者の方の思いも色々あるところでもございまして、もう少ししっかり話をしていくべきではないかということで、地元の皆様方のお話も伺うため、今後、ワークショップという形も取り入れながら進めていこうと考えております。

そうしたことで、今後の流れについての説明でございます。

当初、第1回推進会議の場では、今後のスケジュールということで、令和5

年度中には最終的なビジョンの策定を目指すという形で御説明したところでございます。

しかしながら、先ほど申し上げましたとおり、追加の社会実験、それから山口駅通りの交通社会実験というところにもう少し時間がかかるものと考えておりまして、今年度につきましては、現時点での課題の整理、取りまとめという形を行い、令和6年度以降に、今後の具体的な整備などの検討、追加で必要な社会実験、その他エリアの社会実験、それと山口駅通りの交通社会実験の実施をいたしまして、ビジョンの策定という形を目指していきたいと考えております。

委員の皆様方には、当初、令和5年度中の策定というお話をしておりましたところ、もう少し長い期間にはなりますが、御協力をいただければと思っております。

説明は以上でございます。

<伊藤会長>

ありがとうございました。ただいま山口駅通り、どうもん広場、一の坂川交通交流広場の3か所の社会実験の概要報告がございました。

実施した事務局としてはなかなか好感触を得ているというような報告であったと思いますが、社会実験の日数、あるいは天候の状況等を踏まえて、もう少し社会実験を継続したいという思いもあるようであります。それに伴って、ビジョンの策定を来年度以降に少し繰り延べると、同時に山口駅通りの交通社会実験についてもしっかりと地域と議論しながら積み上げていきたいという思いがあるということで、それについてもスケジュールを来年度以降に延ばしたいという説明であったと思います。

ただいまの説明について、御質問あるいは御意見があればマイクをお持ちいたしますので、よろしく願いいたします。

はい、川口委員さん。

<川口委員>

御説明ありがとうございました。色々と実験されたということで、私も見に行きましたし、一の坂川交通交流広場では休ませていただき、周りの人の声も聞いたところでございます。

おっしゃるように、一の坂川、それからパークロード、商店街という一体がつながるといいねと思っており、これを急加速化と言いますか、あの周りが分断せずに一体になれるよう、早くビジョンを策定していただきたいところなんです。今の説明では、色々なことをきちんとやっていくため、令和6年度以降にビジョンの策定を持ち越して、ということでしたので、理解はいたしますが、やはり早くやって欲しいという気持ちは商店街としてはございます。

山口駅通りについては、山口駅前地区の景観市民ワークショップにも顔を出しているところですが、色々と調整事項があるということで大変だなと思っております。ただ、賑わいの創出や、歩道空間の活用、それから休憩施設が設置され滞在環境が作られるということが主ですから、これがきちんとできて、一番大事な歩いて楽しいまちということを是非実現していただきたいなと思います。以上でございます。

<伊藤会長>

スケジュール感について事務局からよろしいですか。早く作って欲しいという意見がありました。

<川口委員>

それは仕方がないかなと思います。

<伊藤会長>

その他、御意見等があれば。
河野委員さん、いかがですか。

<河野委員>

商工会議所の河野です。今回の社会実験自体は、調査としては期間が短かったというか、サンプリングの数が少なかったということで、一概に評価しにくいところはあるのですが、概ね良い傾向が出ているということで理解はしております。

ただ、一番肝心な交通を絡めた部分というのは、山口駅通りの方々の色々なお考えもある中で、何をどういう風に進めるのかということは、確かに慎重にしないといけないとは思っております。

今、全国で話題になっておりますように、夏場の集中豪雨で、都市部と言いますか、人口集積部分が水没するという都市が多い中で、山口市の場合、大市なんかはハザードマップ上も浸水しませんし、中市、米屋町、道場門前についても3m未満というあまりひどい浸水にも指定されておらず、そういう割と良い場所柄にこの人口集積部がありますので、ここにコンパクトな街という形で人口集積をして、このまちなかウォークブルを本当に推進していくためには、交通ということと人口集積ということに合わせて議論していかないと、本当に実りのある結果は出ないと思っております。

人がここに来なければ意味がありませんので、来るための手段が、今は皆さん自家用車で来れますが、団塊の世代の人があと10年、20年してくると車に乗れなくなりますので、そういうことも踏まえて交通アクセス、公共交通をどう位置づけに持っていくかということ、やっぱり最上位の計画に持って

行って議論していかないと、そういう先が見えないために、この山口駅通りを一方通行にして何のためになるんだという、そういう気持ちもあるように思います。一番大事な議論をいつやるんですかということをお聞きしたいんですが。

<事務局>

【山口市都市整備部長】

御意見ありがとうございます。今、いわゆるハード整備の部分と、交通政策という二つの視点でお話があったと思います。

順番が逆になりますが、交通政策については、今年度、10年間の交通政策を位置付けました計画の中間見直しを行っておりまして、そういった中で、また改めて基幹交通など、そういった部分の重要性等についても再確認したいと思います。

ハード整備につきましては、先ほど課長の説明にも少しありましたように、今後の山口駅通りの交通社会実験を行う中で、地元の方とも真摯に議論をいたしながら、新たな形を模索していきたい、そのように思っております。

<河野委員>

交通は非常に重要でして、私も今、色々な事業者から聞き取りをしている最中ですが、やはり担い手がなかなかいないと。特に需要と供給のバランスがありますので、今回のまちなかウォークブルの実験をするのも、費用を全部出店者が負担するとどうなるかという、最終的には需要と供給の問題に行きつくところですが、交通も需要と供給のバランスで、コロナでこれだけタクシーの利用者がいなくなって、コロナが明けてきたけれどもタクシーの需要が戻らない、結果、運転手が働かない、といった悪循環が続いているわけです。バスの方も同じであり、バスの担い手は若干若い人が入っておりますが、そこをタクシー業者からすれば、いまだにどうしてバスには公金を入れるけど、タクシーには入れてくれないんだ、といった隔たりがあったりして、ここはそろそろ議論しないと、それこそ防府みたいに深夜のタクシーが一台もない、25,000円でタクシー会社が順番に一台借り上げていくというような時代がそこまで来ている状況ですから、これは本当に業者も入れて、何がいるかということをしっかり議論していかないと、ここに本当に人が流入する仕組みにならない、ウォークブルにならないと思います。その10年後というもの、そこまで踏まえた検討をして欲しいと思います。

<伊藤会長>

はい、ありがとうございます。タクシーも公共交通の大切な担い手として一翼を担っておりますので、これからもその対応、支え方をしっかり議論してま

いりたいと思っております。

その他に御質問、あるいはこの度の社会実験に対する印象なり、何かございますか。

はい、泉委員さん。

<泉委員>

二つお伺いいたします。一つ目は、この度は社会実験時にPRをあまりしておらず、その割には人がたくさん集まった、という御説明でしたが、今後、逆にPRをたくさんした場合にどれだけ人が集まるか、という比較はされるお考えがありますか。

<事務局>

【山口市都市計画課長】

やはりこの取組というのは一過性で終わるものではなく、継続的に、持続的に取り組んでいかなくてはいけないと考えております。イベント的にしてしまうと、その一瞬で終わってしまうため、この取組がずっと続くようなものを目指していきたいとは考えておりますが、全く知られなくても問題ですので、そのあたりのバランスを取ったPRを行っていこうと考えております。

<泉委員>

二つ目が、13ページのどうもん広場のところですが、実験結果を踏まえた今後の取組の⑤に「キッチンカーのアーケードの交通規制時間帯における入出場を可能とするための協議」とあります。確かにあちこちのスポーツ施設ではお店がないので、キッチンカーが行ってかなり賑わっております。ただ商店街の中にこれを入れるということは、賑わいという部分では良いのですが、既に商店街の中には色々な飲食店がございますので、この辺を良い具合に持っていないと、無制限にキッチンカーが入ってきて商売するという事になれば、既存のお店が影響を受けるのではないかと危惧をしておりますが、その辺の考えについて教えていただきたい。

<事務局>

【有限会社ハートビートプラン】

実は、今回の全ての出店者について、山口道場門前商店街振興組合の理事の皆様にご確認いただき、この業界であれば、このお店であればいいだろう、ということをご確認していただいております。

今後も継続して行っていく場合には、このチェック体制などを理事会の方で作っていかうと検討されておまして、そういう形で、今回の社会実験の際にも、商店街の既存のお店とバッティングしないようにとか、変な競争になら

ないような配慮というのはさせていただいております。

そこは非常に重要な点だと思っており、キッチンカーだけが儲かって、他のお店にお客が行かなくなる、ということがないように配慮は行っておりますし、今後もしていきたいと思っております。

<伊藤会長>

その他にございますでしょうか。

鷗委員、よろしいですか。

<鷗委員>

大変緻密な社会実験をされて、非常に良い結果が出ていると思うんですが、引き続き社会実験を継続するということですので、注意しないといけないと思うことをいくつかお伝えしたいと思います。

まず一点目が、実験の内容が多分、大手町や大阪でやっているような実験の方法論とほぼ同じだと思いますので、人口20万人弱の中心市街地でやられる実験の方法論のオリジナリティを少し高めた方が良いかなと思います。大手町で成功しているからといって、山口市の中心市街地で成功するとはなりませんので、その辺の方法論は少し工夫された方が良いかなと思います。

二点目は、日常と非日常という話を以前したと思いますが、実験という非日常的なバイアスがかかるので、いかに日常的に考えるかということ、実験という非日常的なバイアスを取り除いた形の日常的な考え方を常に持っておかないと、これでうまくいったことにはなかなかならないかな、という点です。

三点目は、人がいくら来たから成功だとか、ここに店舗が10件協力して、これだけ人が来たから成功だ、といったいわゆる目標設定をするのかしないのかです。最終的に、道路幅員を変えたり、歩道空間を活用したりといった現実的な実践をやる時に、この目標値をクリアしたからできるんだ、ということにするのか、それとも先ほど御意見があったように、協議の中で、これはもう行くしかない、と決めるのかですね。この辺は今くらいから少し戦略的に考えておいた方が良いのではないかと思います。どちらかという、目標設定をしておいた方が市民向けには説明しやすいかもしれないとは思いますが、その辺は少し念頭に置いておいた方が良いかなと思います。

これからの活動についての注意しなければいけないようなことを少し申し上げました。以上です。

<伊藤会長>

ありがとうございました。かなり本質的なお話でございましたが、事務局の方で何か基本的な考え方などはありますか。

<事務局>

【有限会社ハートビートプラン】

まさにおっしゃっていただいたとおりで、今回の社会実験については、先ほど泉委員からも御質問のあったとおり、いかにイベント的にしすぎないか、が非常に苦慮した点でもあり、今後も例えば2、3か月など、もっと長い期間でやって、本当の日常の動きを見るなど、そういうことはしていかななくてはいいかと思えます。

結果自体についても、例えばどうもん広場での売り上げが上がったということも、なるべく日常的にやったところではありますが、イベント的だった結果だとは思いますが、そういうイベント的な補正みたいなものも少しあるという認識ではあります。

目標設定についても、私も非常に難しいと思っており、苦慮しているというか、どうしようかとまさに悩んでいるところです。場所によっても、今回の3箇所それぞれ違うと思えますし、指標も変わってくると思えますが、御指摘のとおり、皆さんの納得感や共感を得ていくという意味では、きちんと設定をして、これをクリアしたよね、という確認をしていくプロセスは必要だと思えますので、それぞれの場所ごとに設定をしていきたいと思っております。

<伊藤会長>

その他、御質問や御意見があれば。

はい、砂井委員さん、どうぞ。

<砂井委員>

お願いでございますが、何事をするにも地域住民の理解と協力、これがなくては前に進まないと思っております。特に山口駅通りの件は、非常に難しい例だと思えますので、これからも地域住民との話し合いをしっかりと行いながら、事を進めていただきたいと、このように思っております。よろしく願いたします。

<伊藤会長>

その点はしっかり意識しながら進めてまいりたいと思えます。よろしく願いたします。

城一委員さん、何かございますか。

<城一委員>

先ほど鷗委員からもございましたが、私もやはり目標をどこに持っていか、ということが最終的に大事だなと思えます。

それから、来年度以降、今後また更に社会実験を行われていくということ

ですが、山口駅通りについては、将来的にここを空間整備したいという中で、今の形態で社会実験をやっても同じ結果しか得られないと思いますので、まずはどういう形態で使うのか、そこをしっかりとらけていただき、こういう方向で整備するんだ、だからこういう社会実験をするんだ、という明確な目標をもって進められた方が、より具体の成果や結果が得られるのではないかと思います。

現在、それぞれのスポットで社会実験をされておりますが、将来的にはこの一帯をウォークアブルなまちにしていくということで、点を線にし、線から面に広げていく、それぞれのスポットをどのように発展させていくかということも、ある程度創造しながらビジョンを策定していかなければいけないと思いますが、とにかくスピード感を持ってやっていかなくてはいけないと思います。これは山口県だけでなく、全国共通であります。どんどん人口も減っていく中で、10年も経つと山口市もかなり人口が減っていくものと思います。これをやったからといっていきなり人口が増えるわけではないでしょうが、こうして賑わいを創出していくことは、山口市をPRしていく一つの核になると思いますので、できるだけ早急に計画策定をして、事業実施に移していくということが非常に重要だと思います。今後ともしっかりと取り組んでいっていただきたいと思っています。

<伊藤会長>

ありがとうございます。一通り御意見をいただきました。

今、城一委員さんのおっしゃった点については、実は山口県が募集しておりました「持続可能なまちづくり集中支援事業」につきまして、山口市もパークロードから山口駅までの縦軸などを範囲として手を挙げておまして、是非ゲットしたいなと思いますので、合格した際にはよろしくお願ひしたいと思っております。

その他はよろしいですか。では、私の感想を一言申し上げたいと思っております。

私が様々な会合などに参加する中で、よく聞く意見として、「山口市の商店街は休むところがない」、「座るところがないね」というものがございます。やはり高齢化が進んできた時に、そこは厳しいところがあるのかなと思います。もう一点は、最近、商店街にマンションが多く建っておりますが、子育て世代が多く集まるという中で、遊び場がないという点で大きな要望があります。実は、その一つの解決策として、井筒屋の中でYCAMの遊び場を展開しようという発想に至ったという点もあってございまして、そのあたりをしっかりと対応していく必要があるのかなという気がしております。

それからもう一つ気になっているのが、山口駅通りの社会実験の中で、「日陰対策が必要ですね」という意見があったと思います。それは街路樹を今後

	<p>どう見ていくのか、ということとセットになるんだろうという気がしております。一の坂川交通交流広場については、什器の設えの中に屋根があったため、日陰問題が出てこなかったんだろうと思いますが、商店街のどうもん広場以外は、日陰対策をどう考えるか、ということが大きなテーマになるんだろうという気がしております。</p> <p>それと、調査結果の項目の中で、何もしていないという選択肢があって、私はあれが一番多くなって欲しいなと思っております。まち歩きというのは、基本的には目的なしに歩くのがその楽しさなので、このウォークブルのまちとしての価値をどこに持っていくのか、それがどこかによって、大きく方向性が変わってくるのかなと思っております。やはり、ぶらぶら歩いて楽しいまち、思い切り深呼吸できるまち、というのが気持ちいいんだろうなという気もしておりますので、そういった意味で、色々な議論ができればと思っているところであります。</p> <p>今のは私の単なる感想を述べただけでございますが、トータルで事務局が説明した方向性とスケジュール感でよろしいでしょうか。</p> <p>また、公共交通に関してはしっかりと同時に議論してまいりますので、またお力を賜ればと考えております。</p> <p>それでは大体時間になりましたので、事務局に進行をお返しします。</p> <p><事務局> 【山口市都市計画課】 それでは、「その他」の事項といたしまして、次回の推進会議の開催予定について御報告いたします。</p> <p>次回の推進会議の開催予定につきましては、時期は未定ですが、先ほど御説明いたしましたとおり、今回の社会実験の結果や今後の関係者等との調整等を踏まえた現時点での課題の整理のとりまとめを進めまして、一定程度まとまった段階で、また皆様から御意見をいただきたいと考えております。</p> <p>正式に日程が決まりましたら、文書にて開催の御案内をいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上で御報告を終わります。</p> <p>本日は、長時間に渡る会議に御参加いただき、誠にありがとうございました。以上をもちまして、「第3回山口市まちなかウォークブル推進会議」を終了いたします。</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>都市整備部 都市計画課 まちづくり推進担当 TEL 083-934-2831</p>